

DSTC 外傷外科手術マニュアル [Web 動画付]

渡部広明

島根大教授・Acute Care Surgery

待望の“Manual of Definitive Surgical Trauma Care”の第4版が出版された。本書はこの全訳版であり、外傷外科手技をトレーニングするDSTCコースのコースマニュアルである。

近年、外傷外科手術症例の減少に伴い外傷外科手術を習得するのは困難となっている。こうした中、外傷外科手術を習得するための off-the-job トレーニングコースに対する期待感は非常に大きい。DSTC コースはその代表的な国際的コースであり、1993年に開発されて以来、全世界の多くの外科医が受講し外傷外科手術の基本事項を学習している。本コースで学ぶべき事項は多いが、本書はそれを網羅するだけでなく、手術手技にとどまらず外傷外科手術症例を治療する上で重要な外傷患者の生理学的事項、ダメージコントロールの基本事項などが詳述されている。また重症外傷症例の多くは、術後集中治療の成否が救命の可否を

左右するわけであるが、これについても詳しく解説している。

外傷外科手術は優れた手術手技さえ持っていれば患者を救命できるというものではない。研ぎ澄まされた手術手技を修練するとともに、これを成功させ患者を救命へと導くための治療戦略を持ち合わせていなければならない。こうしたことを感じさせるポイントが本書には包括されている。そもそも DSTC コースでは動物と献体を用いた手術手技を習得するセッションと同時に治療戦略（decision making）を学習するセッションが設けられている。本書では decision making 能力を習得するための要素が随所に記載されており、実臨床でも大いに役立つものとなっている。

さらに本書では手術手技や戦略決定能力に加えもう一つ重要な要素として外傷外科手術チーム員へのコミュニケーションについて記載している。重症外傷診療におけるノンテ

クニカルスキルに関して新たな解説を加え、外傷外科手術チームを統率するリーダーシップとコミュニケーションのあり方について述べている点は注目に値する。また、手術室看護師へのブリーフィングについて言及している点は、外傷外科を解説する書籍としては素晴らしい視点といえる。

本書は外傷外科医が習得しておくべき、戦略、戦術、チームワーク構築という重要な要素を網羅し、さらに臨床実践することを想定した内容となっており、医師のみならず、外傷外科手術に関わる全ての職種に推薦したい一書である。外傷外科医ならばぜひとも持っておきたい書籍といえる。

●B5/頁 416/2016 年 9 月

定価：本体 8,000 円＋税

[ISBN978-4-260-02829-5]

医学書院 刊